

海上保安庁の海洋調査

笹原 昇 （海上保安庁 第五管区海上保安本部 海洋情報部長）

海上保安庁海洋情報部（水路部）では、明治 4 年（1871 年）から船舶を座礁させないよう航海安全のため、港湾において海洋調査（水路測量）を行い、海図を提供してきた。

航海安全のためだけでなく、日本の海洋権益を守るため、大陸棚調査や海洋の基盤情報を整備するための海洋調査も行っている。この海洋権益を確保するための海洋調査を中心に、AUV（Autonomous Underwater Vehicle）など新しい観測機器の調査成果なども含めて紹介する。

また、第五管区海上保安本部の業務の一つである「南海トラフ巨大地震の備え」として、地震・津波災害への防災意識の普及のため、津波防災情報図から五管区独自に作成した津波シミュレーションマップも紹介する。

*津波防災情報図（海上保安庁作成） 海上保安庁が保有する海底地形データを用いて、中央防災会議が発表した震源モデルから津波シミュレーションを行い、その結果である津波第 1 波到達時間、最大水位上昇分布などを表示した図。